認知症を心配しているあなたへ

「もの忘れ外来について」

星ヶ丘医療センターもの忘れ外来　医師　森　敏

この動画では、「もの忘れ外来」の実際の診療の流れをご紹介します。

①

【もの忘れ外来とは】

もの忘れ外来は，かかりつけ医から認知症が疑われる患者様の照会を受け，診断と治療を行います。

認知症にはさまざまなタイプがあり，病型によって予後や治療法が異なるため，これらを鑑別した治療方針を立てます。

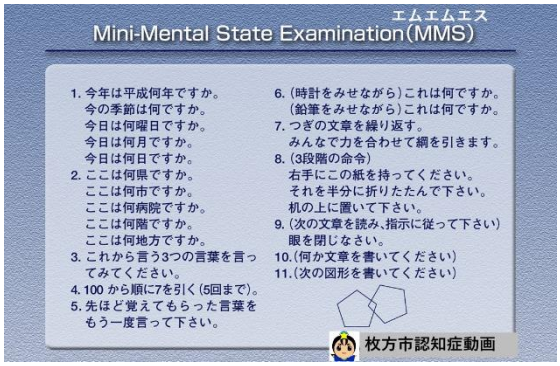
②

【診療の流れ】

もの忘れ外来を受診する前に，あらかじめご家族の方に患者様の状況を問診票に記入していただき，初診日に持参していただきます。

診察室では，問診・診察を行います。

③

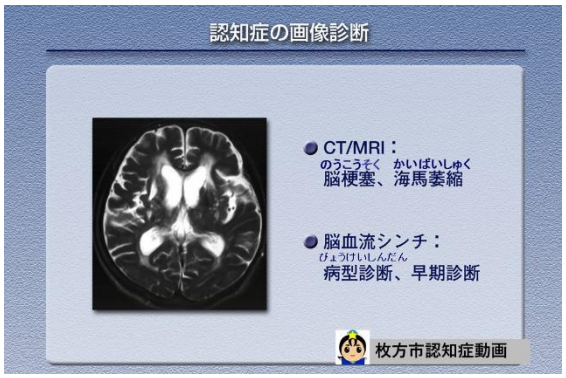


【検査：MMSE(エムエムエス)】

次に，MMSE という簡単な認知機能検査を実施し，認知障害の有無を判定します。

これは 30 点満点のテストで，23 点以下の場合に認知症が疑われます。

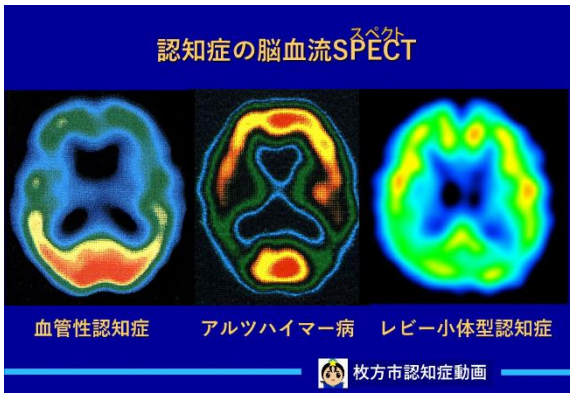
④



【検査：画像診断】

次に，脳 CT を撮影します。脳梗塞などの血管病変はないか，記憶の中枢である海馬(かいば)や扁桃体(へんとうたい)が萎縮(いしゅく)していないかなど，認知症を引き起こす病変を確認します。

⑤



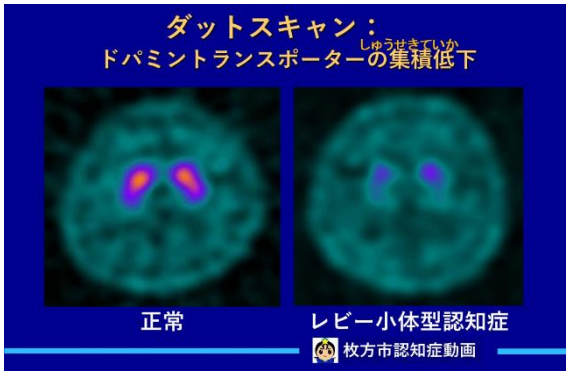
【検査:脳血流 SPECT(スペクト)】

MMSE や脳 CT で認知症が疑われた場合は，脳血流 SPECT で精密検査をします。

血管性認知症では前方部，アルツハイマー型認知症では後方部の血流が低下します。

レビー小体型認知症も後方型の血流低下を示し，低下域は後頭葉にまで及んでいます。

⑥



【検査:ダットスキャン】

レビー小体型認知症が疑われる例では，ダットスキャンという検査が追加されます。

健常者やアルツハイマー病では､向かい合う勾玉の様な集積が見られますが，レビー小体型認知症ではこの集積が著しく低下しています。す。

一連の検査で診断が下り、処方やケアの方針が決まれば、照会元に戻り治療を継続していただきます。

お問い合わせ先　枚方市医師会　　電話：072-848-1600　FAX：072-848-1601
枚方市　健康福祉総合相談担当　　電話：072-841-1401　FAX：072-841-5711